

学校法人酪農学園 第1期中期計画（2020～2025年度）総括報告

1. 第1期中期計画の目的と概要

学校法人酪農学園では、2020年度から2025年度までの6年間を計画期間とする「第1期中期計画」を策定し、酪農学園大学、酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校、および学園事務局が一体となって教育・研究・社会連携・組織運営・財政基盤の強化等に取り組んでまいりました。期間中は新型コロナウイルス感染症の流行や急激な社会環境の変化に直面したものの、PDCAサイクルに基づく計画的な組織運営に努め、教育・研究活動の維持・推進を図りました。

2. 全体の計画達成状況

全152項目の具体的実行計画に対する6年間の総合評価結果は下表の通りです。全体で73.0%の項目において計画を達成（A・B評価）いたしました。

部局	計画数	達成度（A・B）	比率
酪農学園大学	94	71	75.5%
とわの森三愛高校	30	24	80.0%
学園事務局	28	16	57.1%
合計	152	111	73.0%

A：十分に遂行できた B：概ね遂行できた C：遂行が不十分である D：ほとんど遂行できていない

3. 部局別の主な取り組み

【酪農学園大学】

- **教育の質の向上と学類の再編**：獣医学群において EAEVE 国際認証を取得し、これにより本学の獣医学教育が欧米と同等の国際水準にあることが客観的に証明いたしました。また、農食環境学群においては、「農環境情報学類」の設置届出に伴い、新カリキュラム改定の検討・実施を推進しました。
- **実学教育基盤の強化**：「学外実習・インターンシップを活用した実践的プログラムの検討」や「シミュレーション教育環境の整備」をそれぞれ評価 A で完了し、本学の強みである実学教育の質を高める基盤を構築しました。
- **教学システム・事務組織の見直し**：新たな教学システム導入に向けた現状業務の見直し・標準化（評価 A）を推進したほか、教学系事務組織の改編や委員会構成の見直し（評価 B）を通じて持続可能な組織運営に向けた効率化に着手しました。
- **学習・安全環境の整備**：附属図書館6階およびA3号館資料室の「ラーニングコモンズ化」（評価 A）を達成し、学生の主体的な学習環境を整えたほか、バイオセキュリティシステムの点検・評価やハードウェアの検証・整備（評価 A）を通じて安全な実習環境を担保しました。

【酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校】

- **教育理念の浸透と高大連携の促進**：「三愛精神」に基づくキリスト教主義教育を土台としつつ、前年度に策定したスクール・ミッションおよびスクール・ポリシーの浸透を図り、酪農学園（RGU×TOWA）教育連携実行部会を中心に「高大一体」に向けた連携を促進しました。
- **志願者・在学者の確保と財務改善**：全日制入学者 290 名、通信制在籍者 287 名（2026 年 3 月 1 日時点）を確保し、財務改善を実現しました。
- **客観的評価の導入**：従来の自己評価に加え、学校関係者評価および第三者評価を実施して客観性を高めた評価体制を導入し、学校運営の継続的な改善に努めました。
- **社会貢献活動の継続**：SDGs17 目標の達成を目指す取り組みをはじめ、子ども食堂や施設清掃のボランティア、企業連携による地域課題解決に継続して寄与しました。

【学園事務局】

- **ICTを活用した業務効率化**：電子決裁、勤怠管理、年末調整システムの導入により、各種申請・管理業務のペーパーレス化を達成し、手続きの利便性向上と大幅な業務効率化を実現しました。
- **キャンパス環境および安全管理の強化**：農環境情報学類設置に伴う A2 号館の改修を実施したほか、防犯カメラを屋内外合わせて 36 か所増設し、車両ゲートや人感センサー付照明を設置することで安全管理体制を強化しました。
- **社会貢献と防災対応**：「SDGs 実現に向けた取組み」の評価を B へ向上させたほか、江別市と連携し避難所開設における防災体制の検討・整理を進めました。

4. 第2期中期計画（2026～2031 年度）への継承と重点事項

第 1 期の成果と課題を踏まえ、2026 年度から開始する「第 2 期中期計画」では、制度設計にとどまらず「実行・点検・改善」の実効性を高めるため、以下の 4 項目を最優先課題として推進してまいります。

1. **教学マネジメントと内部質保証の強化**：学びの質の可視化と教育内容の継続的な改善を進めます。
2. **持続可能な財政基盤の確立**：収支構造の改善と効率的な予算編成により、安定した経営体制を再構築します。
3. **人材育成・人事評価制度の構築**：教職員の能力開発と成果を適切に反映する公正な評価体制を整備します。
4. **DX 推進による業務改革**：業務の効率化とデジタル化を推進し、学生・生徒へ提供するサービスの向上につなげます。

社会に開かれた魅力あふれる学園を目指し、教育・研究・地域貢献を通じて社会に貢献し続けるため、今後とも組織一丸となって改革を進めてまいります。